

# 新潟市歴史資料だより

## 新潟市合併記念事業

### 「81万人の港町・新潟」を開催

平成17年に合併した市域は、港町新潟を結節点にして、古くから結ばれていました。市域発展の原点とも言える港町新潟に焦点をあてた記念事業を、8月19日（土）に朱鷺メッセで開催しました。内容は3部構成です。

#### 1部：シンポジウム「港町新潟と舟運」

原直史・南憲一・堀健彦・中川仲一・加藤功の各氏

#### 2部：記念講演「日本海海運の展開と新潟湊」

原直史氏（新潟大学人文学部助教授）

#### 3部：サミット「北前船 その遺産と継承」

函館市長井上博司・酒田市長阿部寿一・佐渡市長高野宏一郎・坂井市長坂本憲男・敦賀市長河瀬一治・新潟市長篠田昭の各氏

当日は、約360名の方々から御参加いただきました。

なお、資料集（A4判61ページ 1冊500円）は残部があります。入用の方は、歴史文化課歴史資料係へお問い合わせください。別に当日の記録集を作成中です。



シンポジウム



壇上の各市長

## 歴史資料に関する主な事務内容

### ■資料の公開

市史編さんの資料や市民の皆様から御寄贈いただいた資料のうち、整理の終えたものを公開しています。閲覧・複写等どなたでも利用できます。原則として、複製資料で利用していただきます。閲覧時間、複写料金等、詳細は、歴史文化課歴史資料係に御照会ください。

また、資料の閲覧のほか、疑問に思ったことや調査してみたいことなどがありましたら、お問い合わせください。

### ■資料の保存

資料を整理して目録を作成しています。また、資料を写真撮影し、複製本を作成しています。今年度は、下記の資料の複製化を予定しています。

- ①水沢新田 富所・佐藤家文書：江戸から昭和期の資料。江戸・明治期が中心。（新潟市指定文化財）
- ②鳥屋野区有文書：江戸から昭和期の資料。

③新崎区有文書：江戸から昭和期の資料。

④北場会所文書：江戸から昭和期の資料。

⑤板井会所文書：明治から昭和期の資料。

⑥沼垂町宅地図面：明治8～10年の資料。

⑦鳥原 笠原家文書：江戸から昭和期の資料、明治前期の連合戸長期が中心。

### ■資料の調査収集

#### ①資料所在調査

民間に所蔵されている歴史資料の所在や分量を把握するため、昨年度から合併市町村の地区別に実施しています。今年度は、岩室・小須戸地区を調査しています。6月から両地区の方々の多大な御協力をいただき、9月までに計41か所を調査しました。

近世から現代にかけての、用水の絵図、水論や山論、土地や山林経営、日記、更正図、村の諸経費の割賦関係など、地域の歴史を語る豊富な資料が多数あり、大切に所蔵しておられました。

②歴史的公文書の引き継ぎ

保存期間が過ぎた公文書の中から、歴史的公文書を選定し、引き継いで保存しています。今年度は、5月に17年度廃棄予定文書から768点を引き継ぎました。合併後、初めての引き継ぎであったので、昨年の約2.7倍の引継件数でした。

■歴史双書の刊行

これまでに10冊刊行しました。合併を機に、昨年度から、双書名を「新・新潟歴史双書」と改めました。今年度は、『新潟市の遺跡』（仮称）を刊行します。

- ・四六判 約160ページ、19年3月発行予定

■新潟市歴史パンフレットの発行

新潟市を市内外の方々に知っていただくため、今年度は歴史の概要と写真や図を掲載したパンフレットを発行します。

- ・A4判 8ページ、19年3月発行予定

■講座の開催

歴史資料を読み解きながら歴史を学ぶ、講座「古資料が語る新潟の歴史」を、10月2日から11月6日まで、新潟市生涯学習センターで開催します。

■黒崎市民会館 歴史展示コーナー

昨年開館した黒崎市民会館の1階ロビーに、黒崎地区の歴史を紹介する小コーナーがあります。10月から中ノ口川の川汽船・川舟をテーマに展示替えします。主な展示内容は下記のとおりです。

①中ノ口川の川汽船

山際七司と新潟汽船会社に関する文書や、安進社の川汽船と黒崎に関する新聞記事、写真パネルなど。

②中ノ口川の川舟

コウレンボウでの修学旅行・出征兵士の歓送・米俵の積込・荷物を積んで走るコウレンボウ・砂利の採取などの写真パネル。

歴史文化施設紹介 一亀田郷土資料館一

資料館は亀田郷の中央部に位置する亀田市街の中心部にあります。亀田郷は、信濃川・阿賀野川・小阿賀野川・通船川に囲まれています。その中央に位置する亀田は、慶安4(1651)年に開発され、元禄6(1693)年に中谷内新田から亀田と改称し、翌年には3・9の六斎市が立つようになり、在郷町として発展しました。亀田郷の耕地の大半は低湿地でしたが、昭和30年代までに土地改良され乾田化しました。

亀田郷土資料館は、「郷土愛のみなもと一ふる里学習の場」として、旧亀田町役場庁舎を利用し平成6年に開館しました。民具・農具は約2,000点、古文書は県指定文化財「亀田町上水道敷設関係資料」など約6,000点を所蔵しています。展示は、湿田の漁具・農具や民具、農家の部屋の外、亀田町の特産物であった亀田縞、袋津の祭り灯籠や、高山組先太鼓の祭りの資料なども展示しています。3階には講座

室があり、古文書講座や歴史講座を開催しています。資料館の近くには、亀田町の鎮守諏訪社があります。神社を囲う垣根(玉垣)の石柱には、大阪や京都などの商店や商人の名も多く刻まれており、亀田織物を中心とした在郷町・亀田の活況をうかがうこ



館長の話に聞き入る子どもたちー「昔の農業展」のそばでー

〈案内〉

- ・開館時間：9:00～16:30
- ・休館日：月曜日(休日の場合は翌日)、休日の翌日、年末年始
- ・入館料：一般100円、小・中学生50円、団体割引は各80円、40円
- ・所在地：新潟市亀田新明町1-2-3
- ・TEL：025-382-1157
- ・交通：JR亀田駅から歩いて約15分、バス停「亀田上町」から歩いて約5分。

〈案内略図〉



### 収蔵資料紹介 ③

#### ■海老ヶ瀬区有文書

江戸から昭和期にわたる海老ヶ瀬の資料で、資料数は約580点、複写簿冊数は466冊あります。江戸時代の名主の成田家文書、明治期に小区長を務めた高橋家文書及び近現代の海老ヶ瀬区有文書からなり、地域の歴史やその背景を知ることができる、まとまりのある資料です。

掲載の資料は、文政6(1823)年の「未年御用覚帳」です。

「御用覚帳」は御用留ともいわれ、江戸時代の文書の一様式で、公文書を書き写した帳面です。領主である新発田藩からの達書や触書を書き留めていますが、村から藩役所などに提出した願書や届書も記載しています。村では達書や触書を受け取ると、御用留に書き写したのちに次の村に回し、最後の村は文書を発信した役人に届けました。

そのため御用留は、当時の領主の支配の様子や村の動向を伝える資料として良く利用されます。

掲載した部分は、一年の始めの恒例となっている「御用始」についての通知を書き写したページで、正月20日に行うこと、村々の名主・組頭が印鑑持参で出席すること、開始時間の「四ツ時」(午前10時頃)に遅刻しないことなどが記されています。

新発田藩は、領地をいくつかの組に分け、大庄屋を置いて支配していました。この通知の発信者(建部道太外2人)は、海老ヶ瀬村などを管轄する蒲原横越組の大庄屋で、3人とも横越村に住んでいました。

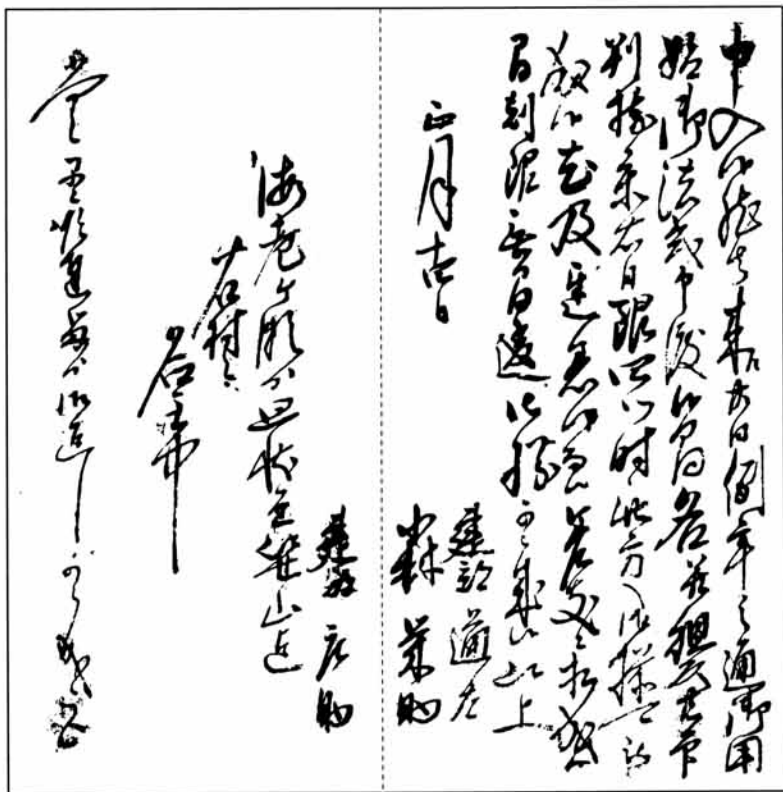
この通知の後段には、回状として海老ヶ瀬村(大形地区)を最初に、最後は笹山村(大江山地区)まで回し、最後の村は大庄屋に返還するように、と書かれています。

文政六年  
未年 御用覚帳  
正月 日

(表紙)



(表紙)



(2ページ目)

(1ページ目)

注一 「可被成」  
注二 「及遅着」

尚々、早々順達、留より御返し可被成候、以上

名主中

右村々

海老ヶ瀬より廻状通笹山迄

正月十四日

小林栄助  
建部庄助  
建部道太

申入候、然者来ル廿日例年之通御用始御法式申渡候間、各並組頭共印判持参、右日限四ツ時此方へ御揃可被成候、  
注二 尤及遅着候而ハ差支ニ相成候間、刻限無間違御揃可被成候、以上

■明治41年、新潟大火の絵はがき

明治41(1908)年、新潟市の中心市街地は、3月に1,198戸、9月に2,076戸を焼失する火災に見舞われました。今回紹介する写真は、この大火を伝える絵はがきです。

絵はがきの刊行は、明治33年、「郵便法」の改正で、私製はがきが認められてから盛んになり、地方でも様々な風景絵はがき、記念絵はがきが作られました。

3月の大火を伝える絵はがきは、歴史文化課に20枚複写したものがあり、5組だったと推定されます。

写真1は、夜の炎上光景と、焼失直後の六景からなる7枚組と推定されるシリーズの1枚です。初代萬代橋西詰からの風景で、「明治四十一年三月八日、午後六時出火、翌三時鎮火、新潟市大火災記念 焼失区域ノ実況、六枚内其三」と記されています。3月の大火では、萬代橋も焼失しました。

写真2は、組枚数不明の、焼失した萬代橋と焼失後の渡し舟の様子を伝えるシリーズの1枚です。「明治四十一年三月八日、万代橋焼落て知る此不便、二十世紀の乗合船」と記されています。

9月の大火を伝える絵はがきは、歴史文化課に複写物を含め7枚あり、2組であったと推定されます。

写真3は、組枚数不明のシリーズの1枚です。このシリーズは「SOUVENIR (記念品・みやげ)」の英文があり、この1枚には「新潟市再度の大火記念、古六新鍋茶屋ヨリ古五方面ヲ望ム」と記されています。新潟市の代表的な料亭・鍋茶屋は3月の大火で古町通八番町の店舗を焼失し、店を移しましたが、その新店舗も9月の大火で焼失しました。このシリーズには、出火元である銭湯の焼け跡を写した、「火元湯屋の附近」と記されたものもあり、報道写真的な要素が感じられます。

新潟市は、この2度の大火で市街の南半分が焼失しました。火災復興のため、榎谷小路の道幅を5間(約9メートル)から2倍に拡幅するなど、道路の拡幅と延長が行われました。焼失した官公庁や学校などは、新しいデザインの洋風建築に生まれ変わりました。



写真1 明治41年3月の大火-萬代橋西詰からの風景-



写真2 明治41年3月の大火-萬代橋焼失後の渡し舟の風景-



写真3 明治41年9月の大火-古町六新鍋茶屋からの風景-

お知らせ

①黒埼常民文化史料館の休館

史料館の本体として使用してきました、市指定文化財の旧武田家住宅の解体修復工事を行うため、平成19年1月から休館します。再開は平成23年度の予定です。

②刊行物の御案内

『新潟市史』をはじめ、合併市町村の市史・町史・村史等を頒布しています。詳しくは歴史文化課歴史資料係にお問い合わせください。

編集・発行 新潟市総務局国際文化部  
歴史文化課  
〒951-8550 新潟市学校町通1番町602-1  
TEL 025-228-1000 (内線 32255)  
FAX 025-225-9309  
EX-ℓ rekishi@city.niigata.lg.jp